

生誕100年 鶴岡政男展 — 人間を愛し、人間を笑う

TSURUOKA Masao: The Centennial of His Birth

会 期：2007年6月30日(土)～9月2日(日)
 休 館 日：月曜日(ただし7月16日は開館)、7月17日(火)
 開館時間：午前9時30分～午後5時
 [入館は午後4時30分まで]
 観 覧 料：一般800(700)円
 20歳未満・学生650(550)円
 65歳以上400円
 ()内は20名以上の団体料金です。
 高校生以下の方、障害者の方は無料です。
 会 場：神奈川県立近代美術館 鎌倉
 〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53
 tel. 0467-22-5000

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞



《視点B》1966年 油彩、カンヴァス 神奈川県立近代美術館

鶴岡政男(1907-1979)は、群馬県高崎市に生まれ、彼の生きた時代や社会と深く関わりながら、つねに人間とは何か問い続けた画家です。戦前から幾度となく画風を変貌させ、個性の強い独自の生きざまを示した鶴岡は、自己に忠実に生きた画家でした。そしてその存在は戦後洋画の異才として注目され続けました。

なかでも、敗戦直後の日本人の抑圧された心理状況を表わした《重い手》や《夜の群像》、原爆投下をモチーフとした《人間気化》といった作品は、戦後美術を語るうえで欠かせない象徴的な作品として今日高く評価されています。また、フーテンの女王ポコを主人公にしたポコのシリーズでは、街の片隅で生きる名もなき人々に共感を寄せ、《青いカーテン》《視点B》《ゴルフ》などでは、ユーモラスであり、同時にエロティシズムを感じさせもします。その独特な画風の根底には、絶えず人間を見つめ、人間であることから滲み出すおかしみや愚かしさ、ときに不気味ささえ暴いていく鋭い眼と人間への深い共感が流れています。

鶴岡政男が生まれてから100年、亡くなってから27年がたちました。鶴岡の画業については、亡くなってからこれまでのあいだ、断片的な紹介はあったものの、その全貌を紹介する展覧会が開かれることはありませんでした。

本展は、画家の生誕100年を記念して、代表作の油絵を中心に、パステル画、素描、彫刻を含め150点ほどを紹介します(一部展示替えをいたします)。21世紀に入ってますます人間の状況の変化が激しくなっている現在、戦前から戦後にかけて人間と現実の矛盾を止むことなく追及した鶴岡政男の画業を改めて検証したいと思います。

美術館ホームページに掲載される下記のプレス情報をご覧ください。

http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2007r_tsuruoka.pdf

お問い合わせ先：

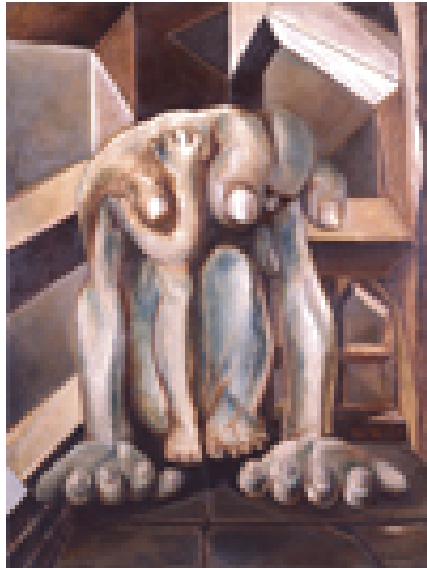
神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53 tel. 0467-22-5000 / fax. 0467-23-2464

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/> 広報担当：平井 展覧会担当：山梨



《母性》1937年 油彩、板



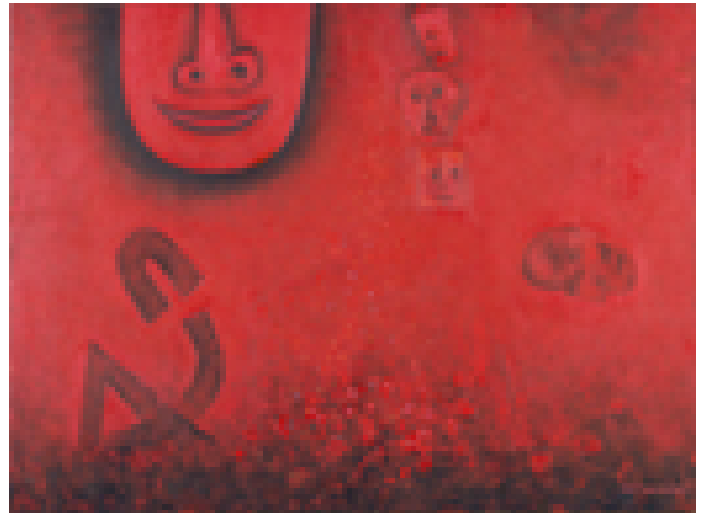
《重い手》1949年 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館



《人体》1951年 群馬県立近代美術館



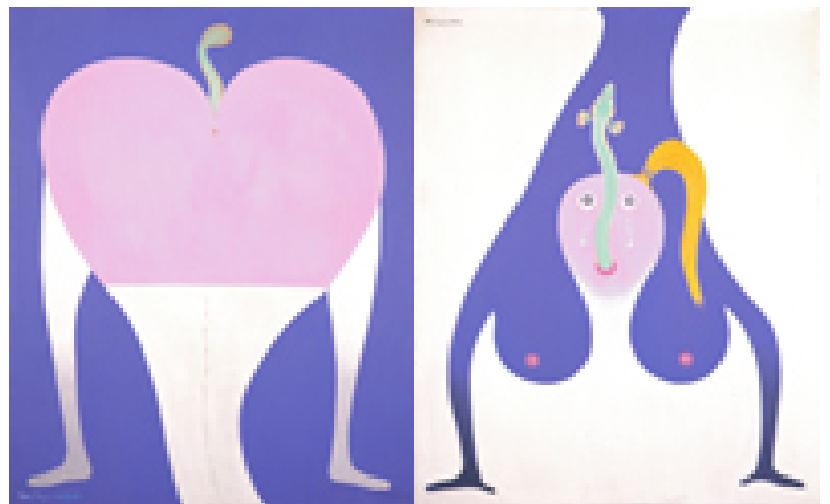
《妖精の棲むボコの巣》1963年 油彩、カンヴァス 宮城県美術館



《夜の祭典》1963年 福岡市美術館



《ゴルフ》1966年 油彩、カンヴァス



《涙する人》1968年 油彩、カンヴァス 群馬県立館林美術館